



始



福岡縣菜種検査の概要
同縣穀物検査所編
昭和六年度

142
271

事業開始第二年

福岡縣菜種検査の概要

昭和六年度

(自昭和六年六月一日)
(至同 七年五月三十一日)

福岡縣穀物検査所

凡 例

- 1 本書は昭和六年産茶種に對する本縣の穀物検査狀況に於て記述するを旨として編輯した。
- 2 年度は經費に關するもの及特に説明を附したるもの、外本縣の茶種検査の事業年度……昭和六年度は昭和六年六月一日より翌年五月三十一日迄に至る一ケ年間を指稱する……に依つた。
- 3 茶種の移出検査及收穫の數量の單位は正味百斤を一箇とし、容量は石數、重量は斤を以て表はした。
- 4 茶種の一升重量は三百十五匁(三等標準品の重さ)として取扱つてゐる。

14.20-271

1

福岡縣茶種検査の概要

目 次

第一 本縣に於ける茶種検査の概要	1
一 茶種の増殖改良に關する施設	1
二 昭和六年度の茶種作	2
1 作 況	2
2 郡市別作付反別と實收高	2
3 品種別作付反別	4
三年次別作付反別と實收高	4
1 作 付 反 別	4
2 實 收 高	6
第二 本縣に於ける茶種の需給狀況	10
第三 本縣に於ける茶種検査事業	10
一 検査開始前の狀況	10
二 検査開始の目的	12
三 検査の制度及組織	12
1 制 度	12
2 組 織	14
第四 茶種検査の普及並適正統一に關ける施設	16
一 検査標準品査定會と標準品	16
二 茶種検査に關する打合及練習	17
三 検査の督 勵	18
四 検査の普及獎勵	19



第五 茶種検査成績.....19

一 郡市別等級別検査数量及等級歩合.....19

二 茶種の生産高及移出箇數.....22

三 月別等級別検査数量.....23

四 郡市別月別検査数量.....23

五 検査執行別等級別検査数量.....26

第六 茶種取引及市況.....29

一 検査茶種の賣買等級格差.....29

二 検査茶種の異動状況.....30

1 縣外輸送.....30

2 縣内輸送.....31

三 茶種の移輸入状況.....34

四 郡市別月別茶種價格.....34

第七 茶種検査の効査.....38

一 取引の圓滑.....38

二 生産改良の促進.....38

三 販賣上の利益.....38

第八 本縣の茶種製油.....39

一 検査茶種の油分含有量.....39

二 縣内の茶種製油事業.....39

附 録

一 茶種検査に関する規則抄録.....42

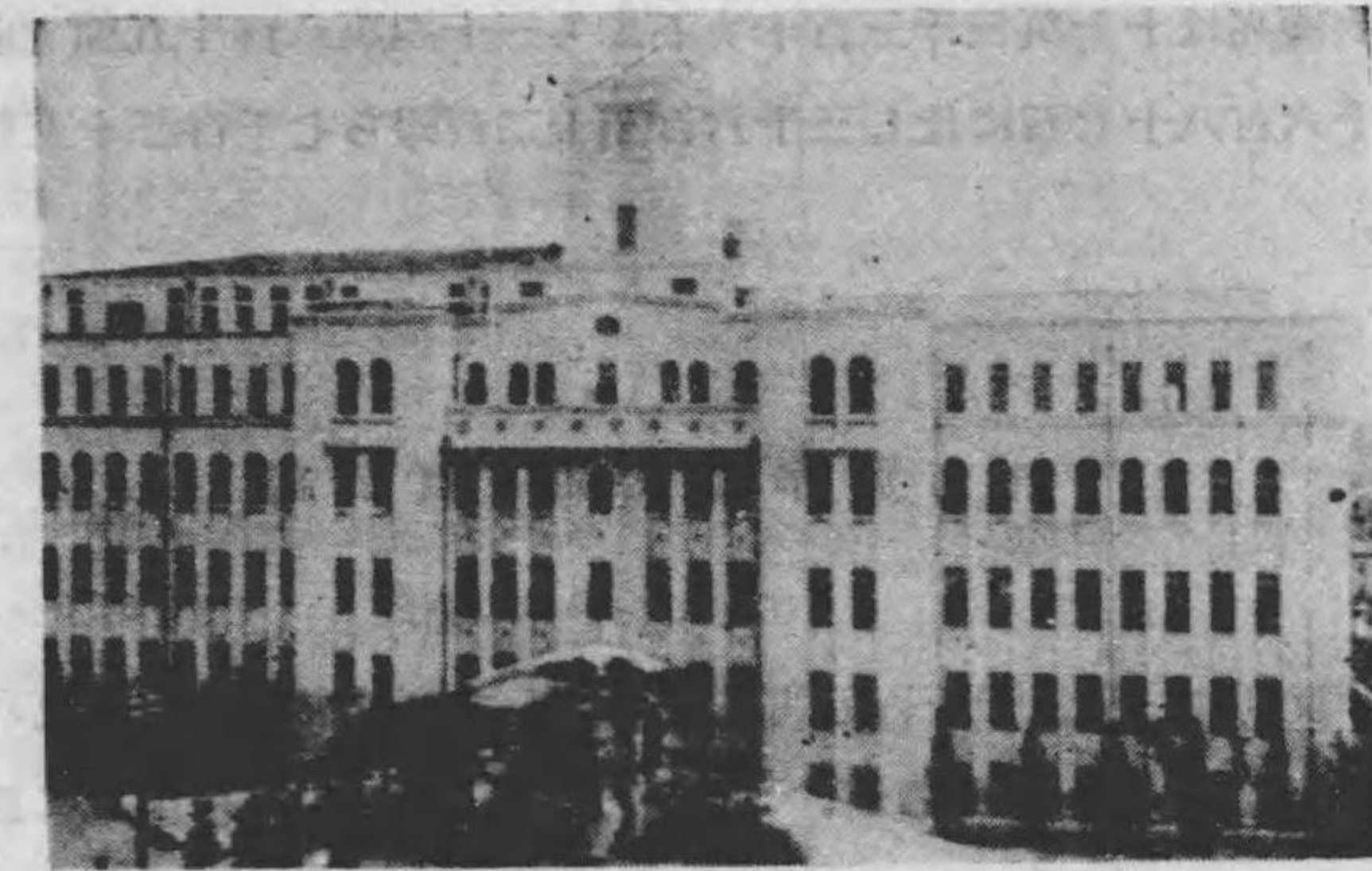
二 茶種検査第二年の関係職員.....44

三 全國の茶種生産状況.....50

第一 本縣に於ける茶種作の概観

一 茶種の増殖改良に関する施設

本縣に於ける昭和六年度産茶種は其の作付段別一萬五千三百五町八段歩、收穫高三十四萬八百十五箇（十七萬三千三百三十七石）に達し、作付反別及收穫高に於ては全國の首位を占め、又品種は優良種たる大朝鮮種の普及總作付反別の約七割に達し全國第一の好評を博してゐる、但し一反當の收量未だ二百二十三斤（一石一斗三升二合）に過ぎざるは、更に改良増殖の餘地尠からざるを示してゐる。



穀物検査所々在福岡縣廳別館

縣に於ては昭和五年六月十四日より茶種検査を実施して規格を統制して、商品價値を増進し且つ生産改良を促進するの外、農林省の奨励と相俟つて農事試験場に専任職員數名を設置し品種を改良する爲め朝鮮種の比較試験及び系統分離による優良なる品種の育成に努め、又原種圃二町歩を經營して優良原種を各農事組合を経て無償配布するの外試験田を設けて栽培法の試験研究指導等を行つてゐる。

二 昭和六年度の茶種作

1 作 況

昭和六年産茶種の作況を觀るに、春分より立夏に至る間天候不良と一面地方的に於ては施肥量の減少とのため其の育成良好ならざりしも、立夏後充實期に入りては菌核病の發生尠く又其の後收穫期に至る間迄日照連続し天候適順なりし爲充實良好であつたため、其の作付反別に於て本年は減少せるにも拘らず其の成績は良好であつた。

本年の作付反別は一萬五千三百五町八段歩にして、前年に比し十町四段歩を減少し之に反し收穫高は十七萬三千三百十九石即ち三十四萬八百十五箇で前年收穫高の十六萬九千六百八十七石に比し三千六百三十二石即ち七千三百五箇の增收を示してゐる。

2 郡市別作付反別と實收高

縣内の總作付反別は一萬五千三百五町八反歩にして實收高は三十四萬八百十五箇(十七萬三千三百十九石)であるが、郡市別に之を見るに作付反別に於て最も多きは筑前西南部にして粕屋の二千五百四十餘町歩を其の首位とし朝倉、宗像の兩郡は二千町歩を突破し、山門、三井の諸郡之に次ぐ。

實收高に於ては作付反別の最も多き粕屋郡其の首位を占め五萬七千四十七箇(二萬九千九百七十三石)にして、筑紫、糸島の兩郡は夫々四萬五千箇以上を穫めてゐる。尙一反歩當の實收高は浮羽郡の三百三十一斤(一石六斗八升八合)最も多く、直方市の百五十八斤(八斗三合)最も少きも、縣の平均二百二十三斤(一石一斗三升二合)にして尙全國の平均實收高に達せず。

郡市名	摘要	作付反別	實 收 高		一反歩當實收高	
			個 數	容 量	重 量	容 量
粕 屋	町	2,547.5	57,047	29,973	232	1.177
宗 像		1,409.2	32,003	16,093	225	1.142
遠 賀		182.9	3,848	1,938	209	1.060
鞍 手		285.1	6,428	3,263	226	1.145
嘉 穂		109.3	2,379	1,207	217	1.104
朝 倉		1,836.0	39,299	19,973	214	1.088
筑 紫		2,140.4	48,978	24,811	228	1.159
早 良		310.5	7,281	3,649	234	1.190
糸 島		2,341.6	45,730	23,213	195	0.991
福 岡		778.3	17,625	8,950	227	1.150
若 松		—	—	—	—	—
八 幡		4.5	134	68	298	1.511
戸 畑		—	—	—	—	—
直 方		12.2	192	98	158	0.803
浮 羽		389.3	12,947	6,572	331	1.688
三 井		920.8	24,138	12,253	262	1.331
三 瀬		357.1	9,720	4,934	272	1.382
八 女		214.3	4,007	2,034	187	0.949
山 門		946.8	17,358	8,811	183	0.931
三 池		218.1	3,790	1,924	174	0.882
久 留 米		123.3	2,837	1,400	231	1.170
大 牟 田		—	—	—	—	—
企 救		32.2	810	411	252	1.276
田 川		49.1	823	418	168	0.851
京 都		73.6	1,873	951	255	1.292
築 上		9.9	292	148	294	1.495
門 司		—	—	—	—	—
小 倉		14.0	276	140	197	1.000
合 計		15,305.8	340,815	173,319	223	1.132

3 品 種 別

栽培品種数は米麥に比すれば甚だしく少く、僅かに十餘種に過ぎず、内優良品種割以上を普及せるも尙品質の改良上在來種の七分一厘を除去するの要あり。

事 項 品 種 別	昭 和 六 年		前 年		比 較	
	作付反別	總作付反別に對する割合	作付反別	總作付反別に對する割合	増	減
大 朝 鮮	10,286.7	0.649	11,863.1	0.697	—	1,576.4
小 朝 鮮	4,382.4	0.276	3,677.7	0.216	704.7	—
在 來 種	772.7	0.049	1,202.9	0.071	—	430.2
吾 妻 種	109.2	0.007	—	—	109.2	—
粕 屋 種	50.0	0.003	159.7	0.009	109.7	—
中 朝 鮮	40.2	0.002	—	—	40.2	—

三 年 次 別 作 付

本縣茶種の栽培は財界好調時代には一萬五六千町歩以上の作付反別ありしも、大復し漸次縣の獎勵方針と相俟つて優良品種の栽培と作付反別の増加により年々普尙實收高は作付反別の増加と栽培技術の進歩に伴ひ昭和五年に於ては三十三五於て約二百町歩の減少せるにも拘らず尙且實收高に於ては約四千六百餘箇を増

1 作 付

順 序	郡 市 名	大 正		同		昭 和 元 年	昭 和 年
		1 2 年	同 年	1 3 年	同 年		
1	精 屋	1,867.5	同	1,978.2	同	1,984.7	2,281.2
2	宗 像	459.2	同	498.0	同	637.5	710.0
3	遠 賀	17.4	同	24.3	同	18.8	32.5
4	鞍 手	80.2	同	75.1	同	470.6	83.8
5	嘉 穂	44.4	同	37.1	同	89.1	49.1

作 付 反 別

たる大朝鮮種は六割九分七厘にして小朝鮮は二割一分六厘にて此の二種で既に九

事 項 品 種 名	昭 和 六 年		前 年		比 較	
	作付反別	總作付反別に對する割合	作付反別	總作付反別に對する割合	増	減
朝 鮮 黒 玉	8.5	—	—	—	町 8.5	町 —
サ ガ リ	5.0	—	10.0	—	—	5.0
筑 後 種	1.4	—	1.5	—	—	0.1
西 洋 種	1.2	—	32.2	0.001	31.0	—
其 他	187.1	0.012	67.2	0.004	119.9	—
合 計	15.844.4	1.000	17.015.3	1.000	—	1.170.9

反 別 と 實 收 高

正十三年頃には一萬三千町歩に激減し昭和五年には一萬五千三百十六町歩餘に恢及しつゝあるを觀る。

千百三十二箇(十六萬九千六百八十七石)を穫り、本年度は前年度より作付反別にし、三十三萬九千八百十五箇(十七萬三千二百三十二石)を實收してゐる。

反 別

同 2 年	同 3 年	同 4 年	同 5 年	同 6 年	順 序
町 2,420.9	町 2,538.6	町 2,637.2	町 2,612.2	町 2,547.5	1
808.7	843.7	968.8	1,398.3	1,409.2	2
39.2	40.3	32.3	169.6	182.9	3
98.7	104.8	114.9	330.7	285.1	4
56.6	55.4	50.8	66.5	109.3	5

順序	摘要		大正		同		昭和	
	郡	市名	12年	13年	14年	元	年	年
6	朝	倉	1,447.9	1,421.4	1,491.1	1,488.5		
7	筑	紫	2,427.0	2,396.8	2,362.4	2,063.1		
8	早	良	836.9	922.9	757.6	825.2		
9	糸	島	1,414.1	1,312.2	1,413.5	1,743.2		
10	福	岡	215.4	199.2	161.2	282.5		
11	若	松	—	—	—	—		
12	八	幡	—	—	—	—		
13	戸	畑	—	—	—	—		
14	直	方	—	—	—	—		
15	浮	羽	300.8	313.4	310.4	325.3		
16	三	井	1,041.3	1,003.8	805.9	932.4		
17	三	瀧	1,235.2	1,044.4	901.7	941.8		
18	八	女	392.1	400.7	402.2	431.7		
19	山	門	1,429.1	1,419.0	1,543.1	1,417.8		
20	三	池	174.7	213.9	254.2	200.9		
21	久	留	61.0	59.5	109.5	110.3		
22	大	牟	0.1	0.1	1.6	0.3		
23	企	教	97.3	91.0	53.8	73.2		
24	田	川	23.3	21.4	18.2	26.8		
25	京	都	5.9	9.7	26.7	52.4		
26	築	上	3.0	2.5	4.0	2.9		
27	門	司	1.7	1.5	—	—		
28	小	倉	—	—	11.0	10.5		
29	合	計	13,575.5	13,446.1	13,778.8	14,085.4		

2 實

順序	年次		個數及石數	大正		同		昭和	
	郡	市名		12年	13年	14年	元	年	年
1	粕	屋	{個數 石數}	26,051	39,733	42,934	55,786		
				18,255	20,116	21,789	28,246		
2	宗	像	{個數 石數}	7,704	8,165	11,198	13,126		
				3,901	4,134	5,670	5,914		

同	同	同	同	同	同	順
2年	3年	4年	5年	6年	年	序
1,517.2	1,573.8	1,660.9	1,693.6	1,836.0	6	6
2,076.7	2,032.0	2,071.4	2,148.0	2,140.4	7	7
775.4	801.4	314.7	373.7	310.5	8	8
1,772.4	1,852.0	1,960.7	2,250.7	2,341.6	9	9
281.6	402.6	655.3	778.1	778.3	10	10
—	—	—	—	—	—	11
2.5	2.0	1.2	5.8	4.5	12	12
—	—	—	—	—	—	13
—	—	—	—	12.2	14	14
328.4	295.5	292.0	347.6	389.3	15	15
948.7	900.6	857.9	839.1	920.8	16	16
920.3	438.5	496.8	481.8	357.1	17	17
341.4	360.2	344.0	286.3	214.3	18	18
1,304.7	1,178.3	1,152.0	1,034.2	946.8	19	19
192.2	195.2	206.5	192.7	218.1	20	20
115.3	113.9	112.5	115.9	123.3	21	21
0.2	0.5	—	—	—	22	22
57.4	61.6	57.7	56.6	32.2	23	23
16.5	27.0	32.0	33.2	49.1	24	24
21.7	18.9	33.2	84.5	73.6	25	25
2.9	3.2	0.7	5.0	9.9	26	26
—	—	—	—	—	27	27
15.3	14.6	14.8	11.7	14.1	28	28
14,144.9	13,854.6	14,068.3	15,316.2	15,105.8	26	26

收 高

同	同	同	同	同	同	順
2年	3年	4年	5年	6年	年	序
61,050	66,743	66,664	64,742	57,047	1	1
30,861	33,794	33,754	32,781	29,973		
15,401	18,652	22,462	35,017	32,003	2	2
7,798	9,444	11,373	17,730	16,093		

順序	年次		個數及 石數	大正		同		昭和	
	郡	市名		12年	13年	14年	元	年	
3	遠	賀	{個數 石數	247 125	397 201	225 114	456 231		
4	鞍	手	{個數 石數	1,197 606	1,436 727	9,909 5,017	1,576 798		
5	嘉	穗	{個數 石數	792 401	614 311	760 385	907 459		
6	朝	倉	{個數 石數	25,330 12,325	25,827 13,077	27,563 13,956	29,717 15,067		
7	筑	紫	{個數 石數	49,187 24,905	55,661 28,183	46,845 23,719	44,436 22,499		
8	早	良	{個數 石數	16,019 8,111	14,846 7,517	15,569 7,883	15,182 7,687		
9	糸	島	{個數 石數	16,205 8,205	16,775 8,493	17,305 8,762	21,164 10,969		
10	福	岡	{個數 石數	5,331 2,699	4,327 2,191	3,841 1,945	7,142 3,616		
11	若	松	{個數 石數	—	—	—	—		
12	八	幡	{個數 石數	—	—	—	—		
13	戸	畑	{個數 石數	—	—	—	—		
14	直	方	{個數 石數	—	—	—	—		
15	浮	羽	{個數 石數	8,990 4,552	7,263 3,677	5,781 2,927	8,762 4,436		
16	三	井	{個數 石數	21,936 11,107	2,202 11,150	18,050 9,139	21,545 10,906		
17	三	瀧	{個數 石數	19,187 9,715	14,230 7,205	12,089 6,129	17,665 8,948		
18	八	女	{個數 石數	8,498 4,303	8,340 4,223	8,516 4,312	7,965 4,033		
19	山	門	{個數 石數	19,825 10,038	21,478 10,875	23,908 12,105	24,531 12,421		
20	三	池	{個數 石數	2,439 1,235	3,231 1,636	4,426 2,241	3,681 1,864		
21	久	留米	{個數 石數	1,351 684	1,268 642	2,109 1,068	2,394 1,212		

同	同	同	同	同	順
2年	3年	4年	5年	6年	序
592 300	709 359	741 375	3,470 1,757	3,848 1,938	3
1,951 988	1,971 998	2,504 1,268	7,197 3,644	6,428 3,263	4
1,007 510	1,005 509	942 477	1,708 814	2,379 1,207	5
30,690 15,539	35,181 17,813	37,831 19,155	36,757 18,611	39,299 19,973	6
44,337 22,449	46,123 23,399	47,252 23,925	45,952 23,267	48,978 24,811	7
14,583 7,384	16,179 8,192	6,488 3,285	8,180 4,142	7,281 3,649	8
23,058 11,675	29,374 14,873	37,501 18,988	41,777 21,153	45,730 23,213	9
7,339 3,717	9,535 4,828	14,107 7,143	18,440 9,337	17,625 8,950	10
—	—	—	—	—	11
20 10	178 9	30 15	154 78	134 68	12
—	—	—	—	—	13
—	—	—	—	—	14
8,458 4,283	8,767 4,434	8,571 4,340	9,697 4,910	12,947 6,572	15
26,844 13,592	20,975 10,620	19,596 9,922	19,754 10,002	24,138 12,253	16
17,734 8,979	8,573 4,341	10,308 5,219	9,275 4,696	9,720 4,934	17
5,919 2,997	6,286 3,183	5,652 2,862	4,294 2,174	4,007 2,034	18
23,625 11,962	22,106 11,193	26,477 13,406	28,029 9,129	17,358 8,811	19
3,385 1,714	3,881 1,965	4,426 2,241	3,456 1,750	3,790 1,924	20
2,617 1,325	2,870 1,453	3,000 1,519	2,974 1,506	2,837 1,400	21

順序	年次		大正 12年	同 13年	同 14年	昭和 元年	昭和 元年
	郡市名	個數及 石數					
22	大牟田	{個數 石數	2 1	2 1	30 15	6 3	
23	企救	{個數 石數	1,847 936	1,777 900	1,161 588	1,463 741	
24	田川	{個數 石數	350 117	292 148	257 130	346 175	
25	京都	{個數 石數	45 23	77 39	427 216	976 494	
26	築上	{個數 石數	59 30	44 22	95 43	55 28	
27	門司	{個數 石數	24 12	20 10	— —	— —	
28	小倉	{個數 石數	— —	— —	174 88	166 84	
29	合計	{個數 石數	232,616 122,846	228,005 125,480	253,172 128,191	274,047 141,564	

第二本縣に於ける

本縣に於ける茶種の生産額は全國の二割七分に當り三十四萬八百十五箇に達してゐるが、若松市に日華製油若松工場あるあり、又其の他縣内各地に散在せる小企業者ありて茶種の需要者可なり多く爲に縣内の生産高を以てするも尙且その需要に充たず不足すること五萬四千二十五箇に達すると推算せられてゐる。

第三本縣に於ける

一 検査開始前

本縣に於ける茶種取引の既往状況を觀るに其の取引單位量は正味百二十斤あり、り繩掛方法亦種々ある等、商品的規格の統一なく併も品位等級の區分されざりし被むる損失は眞に尠からざるものがあつた。

同 2年	同 3年	同 4年	同 5年	同 6年	順 序
4 2	4 2	— —	— —	— —	— — 22
1,126 570	1,240 628	1,223 619	1,161 588	810 411	23
213 108	391 198	565 286	644 316	823 418	24
317 161	354 179	577 292	2,210 1,115	1,873 951	25
63 32	47 24	16 8	130 66	292 148	26
— —	— —	— —	— —	— —	— — 27
283 144	236 145	292 148	231 117	276 140	28
290,586 147,040	301,426 152,583	317,225 160,620	335,132 169,687	340,815 173,519	29

茶種の需給状況

年度別	生産高	古茶種 繰越高	輪移入高	消費高	輪移出高	次年度 繰越高	縣内需要に 對する生産 不足高
昭和5年度	335,132	8,560	57,830	379,431	46,962	17,674	44,299
" 6年度	339,815	17,674	34,386	393,840	28,855	10,481	54,025

茶種検査事業

の 状 況

百斤あり稀に容量(五斗)によるものあり、又包装に於ては麻袋、呎の二種に亘爲め取引上の不便、不利眞に大なるものがあり、生産者、賣買業者、製油業者の

二 検査開始の趣旨及目的

前掲茶種取引上の不利不便を除き一面生産改良を促進して品位の向上を圖り縣産茶種の聲價發揚と販路の擴張を計り以て生産者、取引業者、並需要者の利便に資する爲め縣に於ては等級検査の必要を認めたる時偶々農會、産業組合、穀物商組合、製油業者等よりは曩に開始の小麥検査の成功に鑑み検査開始を要望する等茶種検査開始の機運漸く熟したるにつき昭和五年六月十八日より之が検査を実施することとなり検査開始第二年を終つた。

三 検査の制度及組織

1 制度

検査の種類と等級

本縣に於ける茶種の検査は移出検査にして、縣外に移出（縣内の指定地たる福岡、若松、久留米の三市及朝倉、筑紫、三井、三潯、八女、山門の六郡に汽車、電車、自動車又は船舶によりて搬入する場合は規定上之を移出と看做して居る）するものを主として執行する。而して其の等級区分は一乃至三等及等外の四階級であるが、海外へ輸出する茶種に對しては検査申請の請求に依つて優良品には申請に依り特にFIの等級印を附する。而して災害の爲め一般に茶種の品質著しく不良なる場合は其の年に限り四等の一階級を臨時増設するの定である。

包装及單位量

包装は重量約二百五十匁の二重袋を用ひ縦横に掛繩を施し一包装の内容量は正味百斤である。但し穀物検査所長の許可を受け輸出する茶種は正味百二十一斤とし掛繩を省くことが出来る。

検査手数料

移出検査手数料は一袋につき金三錢とし穀物検査手数料領收證紙を申請書に貼付して検査申請の際納入するの定である。

検査場所

検査は別記穀物検査所派出所又は出張所に於て行ふを原則とし、地理上特別の

事情あるものに限り其の所在地に於て行ふことになつてゐる。

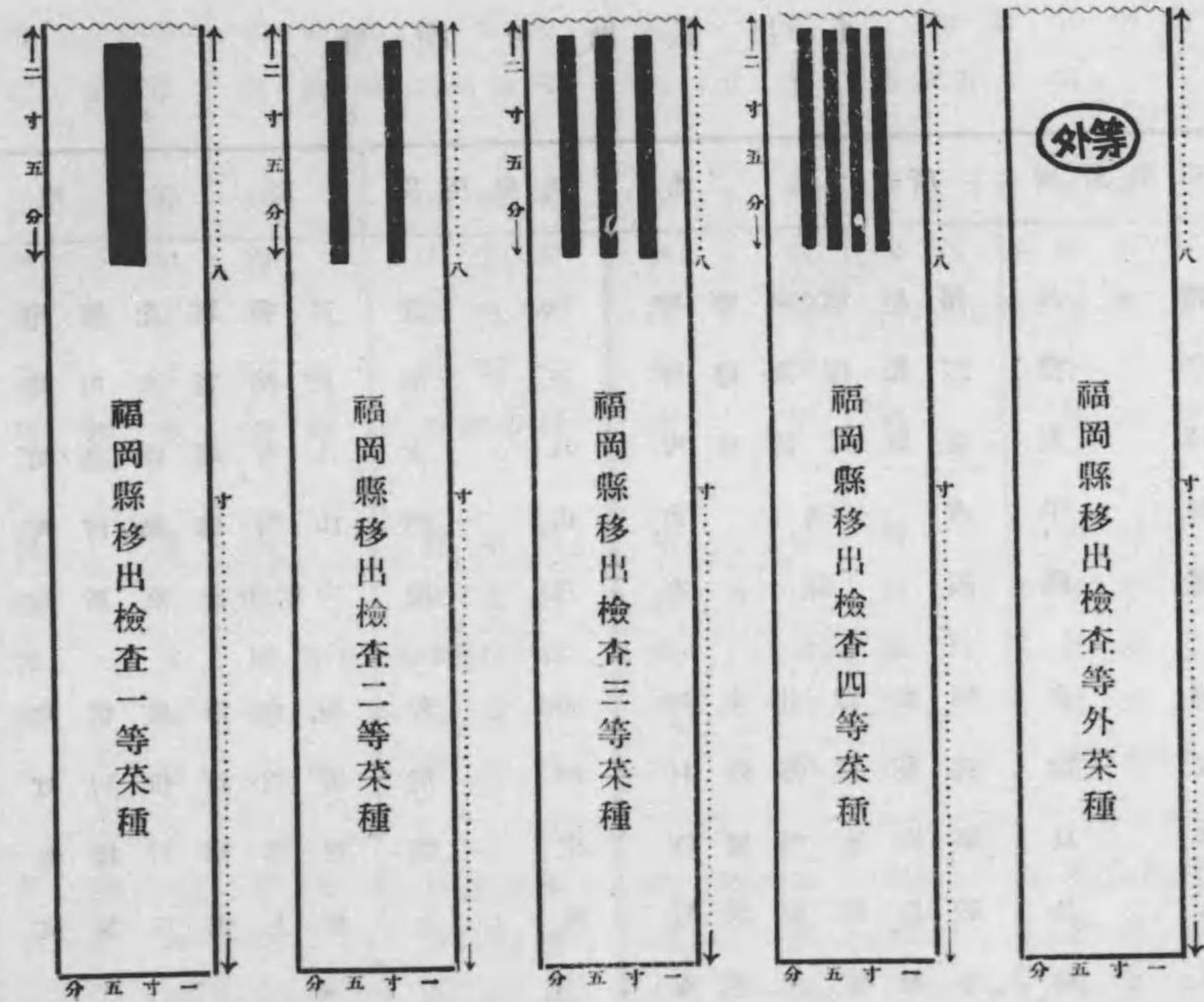
検査の有効期間

検査の有効期間は六十日である。但し十一月一日より翌年五月三十一日迄に検査を受け、其の期間内に移出するものは此の限りでない。

検査等級の標示

等級を表す爲め左の様式の検査封箋紙を掛繩結止に巻封をなして之を表す但し輸出する茶種に就ては封箋紙の巻封を省略し其の袋面に移出検査等級證印を押捺することになつてゐる。

移出検査封箋紙 (用紙の色……一、二、三、四等は白、等外は紫)
(肉色……一、二、三、四等は紫、等外は黒)



2 組 織

穀物検査所は之を福岡縣廳内に置き所長（地方農林主事）、地方農林技師各一人、農林主事補三人、農林技手二人を置き各出張所及派出所を統轄し米、小麥、茶種の検査を執行し其の他穀物の生産改良、商品化に關する事務を執行する。出張所は各郡（一ヶ所）に設置し農林技手各一人を置き地方の検査事務の督勵其の他事務に、派出所は鐵道驛、港灣等樞要の地五十三ヶ所に之を設け一人乃至三人の農林技手を配置し移出検査に従事せしめてゐる。而して茶種検査の特に多忙なる箇所に對しては補助員を配屬助勢せしめて検査執行上遺憾なきを期してゐる。米穀生産検査員は施行町村内の精農者中より一人乃至數人宛を囑託し主として米の生産検査事務其の他關係事務に當らしめてゐる。

イ 出張所 所在地

出張所別	所在地	出張所別	所在地
糟屋	糟屋郡箱崎町	三井	三井郡北野町
宗像	宗像郡東郷町	三潯	三潯郡大川町
遠賀	遠賀郡折尾町	八女	八女郡福島町
鞍手	直方市	山門	山門郡柳河町
嘉穂	飯塚市	三池	大牟田市東新町
朝倉	朝倉郡甘木町	企救	小倉市馬借町
筑紫	筑紫郡那珂村	田川	田川郡伊田町
早良	福岡市西新町	京都	京都郡行橋町
糸島	糸島郡前原町	築上	築上郡八屋町
浮羽	浮羽郡吉井町		

ロ 派出所 所在地

派出所所	所在地別	派出所別	所在地
古賀	糟屋郡席内村	北野	同 北野町
赤間	宗像郡赤間町	善導寺	同 善導寺村
福岡	同 福岡町	若津	三潯郡大川町
東郷	同 東郷町	荒木	同 荒木村
海老津	遠賀郡岡垣村	羽犬塚	八女郡羽犬塚町
遠賀川	同 遠賀村	福島	同 福島町
直方	直方市	柳河	山門郡柳河町
飯塚	飯塚市	矢部川	同 瀬高町
甘木	朝倉郡甘木町	渡瀬	三池郡高田村
二日市	筑紫郡二日市町	久留米	久留米市京町
山家	同 山家村	大牟田	大牟田市東新町
原田	同 筑紫村	伊田	田川郡伊田町
雑餉隈	同 那珂村	行橋	京都郡行橋町
西新	福岡市西新町	豊津	同 今川村
周船寺	糸島郡周船寺村	犀川	同 犀川村
前原	同 前原町	苅田	同 苅田町
前福	同 福吉村	新田原	同 仲津村
博多	福岡市海岸通四丁目	椎田	築上郡椎田町
若松	若松市安政町	角田	同 角田村
八幡	八幡市役所内	宇島	同 宇島町
田主丸	浮羽郡田主丸町	小犬丸	同 東吉富村
吉井	同 吉井町	唐原	同 唐原村
小郡	三井郡小郡村	門司	門司市露月町
間	同	小倉	小倉市馬借町

第四 菜種検査の普及並適正統一に関する施設

一 検査標準品査定会と標準品

昭和六年六月十五日福岡市西中洲縣公會堂に於て昭和六年産菜種検査標準査定会を開催し、會長以下關係方面より任命又は囑託せられたる別記査定会委員參集、知事代理小林内務部長より挨拶あり、次で草場會長議長となり穀物検査標準査定会規則により慎重審議の結果滿場一致、候補品百八十五點中より左記各等級検査標準品を決定した。而して當日査定したる菜種検査標準品に就きては會長より報告の上同十八日縣公報を以て一般に告示し、現品は本所に存置する外各關係方面に送附した。

1 昭和六年度産菜種検査標準品

検査等級別	品種名	油分	水分	夾雜物	産地	生産者
移出検査 一等菜種	大朝鮮	46.45	7.56	0.07	粕屋郡 小野村	西 孝 市
同 二等菜種	同	45.80	7.90	0.07	糸島郡 雷山村	中 村 與 叟
同 三等菜種	同	43.30	7.95	0.09	朝倉郡 立石村	山 崎 茂

2 査定会職員

會長

縣穀物検査所長 草場七郎次

委員

縣穀物検査員	地方農林技師	杉 本 重 雄
	福岡縣農林技手	藤 善 造
	同	澁 谷 淺 次 郎
	同	立 花 平 藏
	同	秋 吉 又 藏
	同	木 村 武 雄 市
	同	豊 福 與 市 郎
同	安 武 守 太 郎	
同	大 神 哲 基	

縣農務課員	地方農林技師	鳥 原 重 夫
	地方農林主事	鷗 野 主 馬
	福岡縣農林技手	奥 村 利 雄
縣農事試験場員	地方農林技師	水 内 哲 雄
	同	和 田 榮 太 郎
農會關係者	福岡縣農會幹事	廣 吉 政 雄
	同 技師	栗 下 惠 毅
	粕屋郡農會技師	長 靜 雄
	宗像郡農會技手	占 部 要 市
販賣斡旋關係者	糸島郡農會技師	西 佐 市
	有限責任福岡縣購買販賣組合聯合會專務理事	春 孝 一
	同 會 主 事	有 光 幸 高
取引業關係者	帝國農會門司販賣斡旋所技手	宮 崎 五 郎
	福岡縣米穀商組合聯合會理事	八 尋 八 右 衛 門
製油業關係者	同	三 隅 德 次 郎
	福岡米商會長	中 村 作 次 郎
	日華製油株式會社社長	中 森 延 一
	福岡市	井 上 長 吉
同	同	小 堀 甚 吉
	朝 倉 郡	上 野 淺 次 郎

二 菜種検査に関する打合及練習

検査等級の適正統一は検査上重要事項である。而して穀物検査標準査定会に於て審議決定せられたる検査標準菜種を規短準繩とし等級程度の適正統一を期し又其の敏速を期することは検査の實績を収むる爲め緊急なる事項である。依つて左記の通り各地方に於て菜種検査に従事する各検査吏員を招致し一般事務の打合及鑑定技術の練磨を圖るため本所員指導の下に菜種の検査打合練習會を昭和六年六月二十三日より四日間開催した。

1 附 議 事 項

- 1 茶種検査補助員の事務執行に関する件
- 2 茶種の包装検査に関する件
- 3 糶摺機増設の取扱に関する件
- 4 入庫検査認可農業倉庫に関する件
- 5 貯蔵米の出庫検査に関する件

外 三 題

2 會 場 及 參 會 者

期 日	場 所	參 會 者		指・導 本 所 員
		農林技手	補 助 員	
六月二十三日	京都郡行橋町 縣隣保館	16	14	草 場 所 長
同 二十四日	遠賀郡折尾町 郡公會堂	12	18	杉 本 技 師
同 二十五日	筑紫郡那珂村 郡自治會館	17	17	藤 技 手
同 二十六日	久留米市公會堂	25	15	澁 谷 技 手

三 檢 査 の 督 勵

検査は各等級最低位の検査標準品を各員に配布し之を基準として執行せしめ其の誤なきを期する外、本所勤務職員を縣下各地に出張せしめ實地に検査の指導督勵に當らしめ又検査品の見本を蒐集點検して其の誤なきを期する等検査の適正統一に努むる處あつた。爲に茶種検査實施後未だ二年目なるにも拘はらず等級、包装内容量等に関し聊の問題もなく好成績に終了した。

四 檢 査 の 普 及 獎 勵

生産者側たる各級農會、配給者側たる産業組合、穀物取引業者及需要者側たる製油業者等各關係方面との聯絡を密にし検査茶種の増加を促し又一面賣買等級格差を協定して検査茶種の取引を圓滑に且つ便にし其の他機會毎に各關係方面に検査茶種の有効なることを獎勵する等検査の普及に努めた結果、關係者は自ら進んで検査を申請するに至つた。

第五 茶 種 の 檢 査 成 績

一 郡市別等級別検査數量及等級歩合

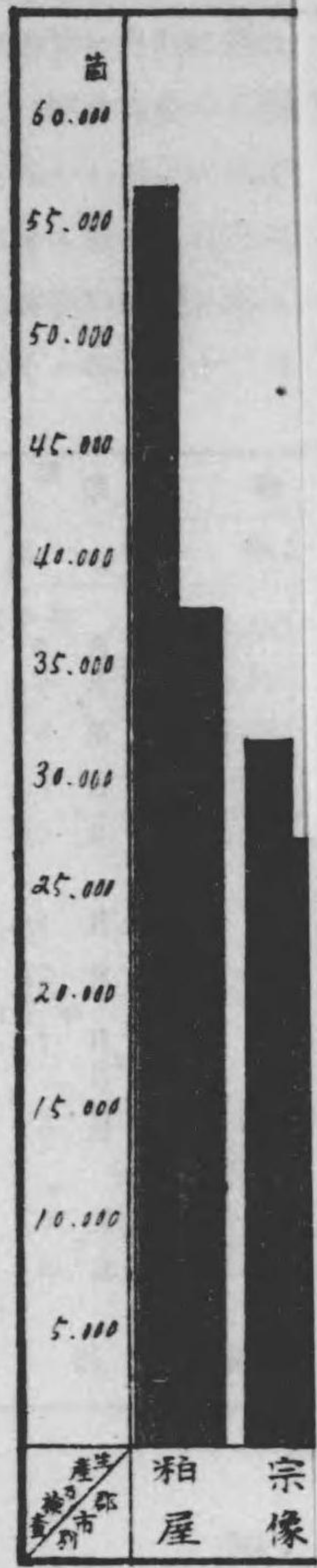
郡市別に茶種の検査數量を觀るに、殆んど筑前地方のみにして最も多きは糸島郡の四萬四千三百九十一箇にして粕屋郡の三萬八千二百二十六箇、宗像郡の二萬五千七百六十八箇、筑紫郡の一萬六千八百六十三箇之に次ぎ其他三千箇以上のものに鞍手、朝倉、遠賀の三郡にして筑後方面は三井郡の千八百十五箇のみにて豊前方面は全部で僅かに二千餘箇に過ぎず。

次に之を等級別割合を觀るに縣平均は一等は六分、二等は三割三分四厘、三等は五割一分六厘にして等外は九分となつてゐるが、一般に上等級のもの多きは宗像、糸島、福岡の諸郡市になつてゐる。

順序	郡市名	検査数量				合計
		一等	二等	三等	等外	
1	粕屋	254	9,113	23,918	4,841	38,126
2	宗像	5,901	10,909	8,102	856	25,768
3	遠賀	232	1,271	1,329	183	3,015
4	鞍手	332	2,363	2,570	212	5,477
5	嘉穂	—	200	909	395	1,504
6	朝倉	13	1,400	1,486	385	3,284
7	筑紫	36	3,585	11,043	2,199	16,863
8	早良	4	358	1,050	199	1,611
9	糸島	1,853	18,503	21,723	2,312	44,391
10	福岡	24	55	389	247	715
11	若松	—	—	—	—	—
12	八幡	—	—	6	3	9
13	戸畑	—	—	—	—	—
14	直方	25	58	103	—	186
15	浮羽	—	—	—	—	—
16	三井	—	45	750	1,020	1,815
17	三浦	—	—	—	—	—
18	八女	—	—	—	—	—
19	山門	—	—	—	—	—
20	三池	—	—	—	—	—
21	久留米	—	—	—	—	—
22	大牟田	—	—	—	—	—
23	企救	—	—	—	—	—
24	田川	—	2	118	37	157
25	京都	23	332	491	50	896
26	築上	—	—	246	6	252
27	門司	—	—	—	—	—
28	小倉	15	296	574	31	916
29	合計	8,712	48,490	74,807	12,976	144,985

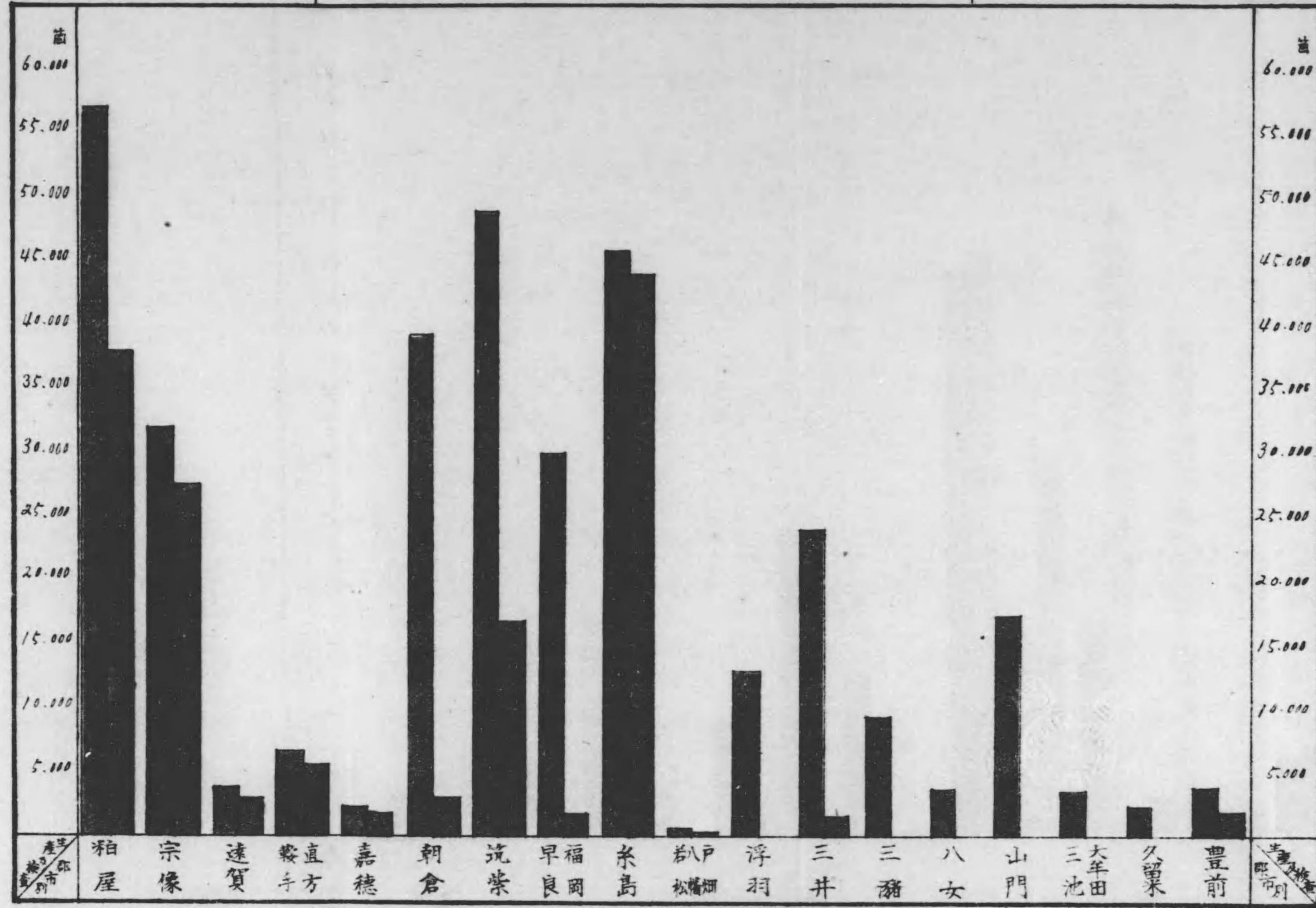
等級歩合				受検		順序
一等	二等	三等	等外	賞人員	件数	
0.007	0.239	0.627	0.127	23	133	1
0.229	0.423	0.314	0.034	26	122	2
0.077	0.422	0.441	0.060	19	30	3
0.061	0.431	0.469	0.039	13	19	4
—	0.133	0.604	0.263	10	14	5
0.004	0.426	0.452	0.118	16	32	6
0.002	0.213	0.655	0.130	56	124	7
0.002	0.222	0.652	0.124	7	9	8
0.042	0.417	0.489	0.052	40	150	9
0.034	0.077	0.544	0.345	4	7	10
—	—	—	—	—	—	11
—	—	0.667	0.333	1	1	12
—	—	—	—	—	—	13
0.134	0.312	0.554	—	1	1	14
—	—	—	—	—	—	15
—	0.025	0.413	0.562	8	13	16
—	—	—	—	—	—	17
—	—	—	—	—	—	18
—	—	—	—	—	—	19
—	—	—	—	—	—	20
—	—	—	—	—	—	21
—	—	—	—	—	—	22
—	—	—	—	—	—	23
—	0.013	0.752	0.235	3	3	24
0.026	0.371	0.548	0.055	12	19	25
—	—	0.976	0.024	1	1	26
—	—	—	—	—	—	27
0.016	0.323	0.627	0.034	7	9	28
0.060	0.334	0.516	0.090	247	692	29

年	月	日
1	1	1
1	1	2
1	1	3
1	1	4
1	1	5
1	1	6
1	1	7
1	1	8
1	1	9
1	1	10
1	1	11
1	1	12
1	2	1
1	2	2
1	2	3
1	2	4
1	2	5
1	2	6
1	2	7
1	2	8
1	2	9
1	2	10
1	2	11
1	2	12
1	3	1
1	3	2
1	3	3
1	3	4
1	3	5
1	3	6
1	3	7
1	3	8
1	3	9
1	3	10
1	3	11
1	3	12
1	4	1
1	4	2
1	4	3
1	4	4
1	4	5
1	4	6
1	4	7
1	4	8
1	4	9
1	4	10
1	4	11
1	4	12
1	5	1
1	5	2
1	5	3
1	5	4
1	5	5
1	5	6
1	5	7
1	5	8
1	5	9
1	5	10
1	5	11
1	5	12
1	6	1
1	6	2
1	6	3
1	6	4
1	6	5
1	6	6
1	6	7
1	6	8
1	6	9
1	6	10
1	6	11
1	6	12
1	7	1
1	7	2
1	7	3
1	7	4
1	7	5
1	7	6
1	7	7
1	7	8
1	7	9
1	7	10
1	7	11
1	7	12
1	8	1
1	8	2
1	8	3
1	8	4
1	8	5
1	8	6
1	8	7
1	8	8
1	8	9
1	8	10
1	8	11
1	8	12
1	9	1
1	9	2
1	9	3
1	9	4
1	9	5
1	9	6
1	9	7
1	9	8
1	9	9
1	9	10
1	9	11
1	9	12
1	10	1
1	10	2
1	10	3
1	10	4
1	10	5
1	10	6
1	10	7
1	10	8
1	10	9
1	10	10
1	10	11
1	10	12
1	11	1
1	11	2
1	11	3
1	11	4
1	11	5
1	11	6
1	11	7
1	11	8
1	11	9
1	11	10
1	11	11
1	11	12
1	12	1
1	12	2
1	12	3
1	12	4
1	12	5
1	12	6
1	12	7
1	12	8
1	12	9
1	12	10
1	12	11
1	12	12



二月には全くなし。

菜種の生産高及移出検査箇數



備考 生産高 {
検査高 {

三 月 別 等 級 別 檢 査 數 量

検査數量を月別に觀れば出廻りの初期たる七月最も多く七萬二千九百二十六箇に達し、總検査數の五割餘に當り、六月の三萬五千九百七十五箇、八月の一萬七千九百五十七箇之に次ぎ此の三ヶ月間に於て實に總量の約八割八分に當り之より漸次月毎に減少し三月以後は殆んどなし。

次に等級別に之を觀るに上等級の検査菜種は六、七、八月の検査數量多き期間内に多く一等品は十二月以後は全然なし。

事 項 月 別	檢 査 數 量				計	受 檢	
	一 等	二 等	三 等	等 外		實 人 員	件 數
昭 和 6 年							
6 月	2,560	11,212	19,117	3,086	35,975	96	159
" 7 月	4,708	27,026	34,810	6,382	72,926	99	342
" 8 月	1,253	6,013	9,440	1,251	17,957	32	97
" 9 月	146	2,575	5,893	1,212	9,826	9	44
" 10 月	19	727	2,547	394	3,687	4	21
" 11 月	26	662	1,530	258	2,476	2	16
" 12 月	—	123	745	242	1,110	1	5
昭 和 7 年							
1 月	—	48	431	108	587	2	5
" 2 月	—	78	180	20	278	—	1
" 3 月	—	—	3	—	3	1	1
" 4 月	—	26	123	11	160	1	1
" 5 月	—	—	—	—	—	—	—
合 計	8,712	48,490	94,819	12,964	144,985	247	692

四 郡 市 別 月 別 檢 査 數 量

一般に各郡市共七月を最盛期とし漸次月毎に減少し、一月以後は全く閑散にして五月には全くなし。

順序	月別		昭和6年							
	郡	市別	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1	粕	屋	4,439	14,015	7,092	8,049	2,454	980		
2	宗	像	9,245	10,706	4,988	825				
3	遠	賀	1,231	1,192	588					
4	鞍	手	876	4,398	203					
5	嘉	穂		127	959	288				
6	朝	倉	839	2,202	197	4				
7	筑	紫	5,066	10,804	285	182	161	45		
8	早	良	1,051	560						
9	糸	島	12,429	26,532	2,318	62	1,059	1,403		
10	福	岡	377	267	71					
11	若	松								
12	八	幡		9						
13	戸	畑								
14	直	方			186					
15	浮	羽								
16	三	井	153	1,352	210	100				
17	三	瀨								
18	八	女								
19	山									
20	三	池								
21	久	留								
22	大	米								
23	企	田								
24	田	救			134					20
25	京	川		304	533	18	13	28		
26	築	上				252				
27	門	司								
28	小	倉	265	458	193					
29	合	計	35,975	72,926	17,957	9,826	3,687	2,476		

順序	昭和7年					合計
	12月	1月	2月	3月	4月	
1	800	297				38,126
2						25,768
3						3,015
4						5,477
5		130				1,504
6						3,284
7		160			160	16,863
8						1,611
9	310		278			44,391
10						715
11						
12						9
13						
14						186
15						
16						1,815
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24				3		157
25						896
26						252
27						
28						916
29	1,110	587	278	3	160	144,985

五 検査執行別等級別検査数量

派出所の執行に成る検査総量は十三萬五千百六十九箇にして總検査高の九割三分に當り一萬九千餘箇の周船寺派出所及粕屋出張所最も多く一萬八千餘箇の古賀と一萬七千箇の前原兩派出所は相伯仲し五千箇以上を執行せる派出所は赤間、東郷福間、福吉等なり。之を検査等級より觀れば宗像及糸島の兩郡地方のもの優等品多きを觀る。

次に出張所執行の分は僅に九千八百十六箇にして全検査數量の約七厘に當り、而も筑前部の遠賀、鞍手、嘉穂、朝倉、筑紫、早良の六郡のみに止まり内鞍手郡の五千四百七十七箇最も多く約半數以上を占め筑紫の二千六百四十箇之に次ぐ。

1 派出所執行の分

順序	郡市名	事項 派出所名	検査數量					受檢		順序
			一等	二等	三等	等外	合計	實人員	件數	
1	粕屋	粕屋出張所	27	2,736	13,080	3,323	19,166	14	81	1
2		古賀	227	6,377	10,838	1,518	18,960	9	52	2
3	宗像	赤間	2,178	4,305	2,482	520	9,485	10	58	3
4		福間	1,225	3,650	2,685	68	7,628	9	35	4
5	遠賀	東郷	2,498	2,954	2,935	268	8,655	7	29	5
6		海老津	173	936	940	156	2,205	10	14	6
7	嘉穂	遠賀川	8	173	320	22	523	6	11	7
8		飯塚	—	161	438	122	721	5	6	8
9	朝倉	甘木	13	1,380	1,441	381	3,215	15	30	9
10		二日市	27	1,143	2,776	448	4,374	17	33	10
11	筑紫	原田	9	1,024	929	57	2,019	11	24	11
12		山家	—	28	1	—	29	2	2	12
13	早良	雜餉隈	—	1,205	5,367	1,209	7,781	18	50	13
14		西新	4	229	644	174	1,051	4	6	14

順序	郡市名	事項 派出所名	検査數量					受檢		順序
			一等	二等	三等	等外	合計	實人員	件數	
15	糸島	周船寺	1,017	7,944	10,163	810	19,934	17	68	15
16		前原	587	7,709	7,995	1,173	17,464	16	58	16
17		福吉	24	2,850	3,565	329	6,993	7	29	17
18	福岡	博多	24	55	389	247	715	4	7	18
19		若松	—	—	—	—	—	—	—	19
20	八幡	八幡	—	—	6	3	9	1	1	20
21		直方	25	58	103	—	186	1	1	21
22	浮羽	田主丸	—	—	—	—	—	—	—	22
23		吉井	—	—	—	—	—	—	—	23
24	三井	小郡	—	—	148	3	151	1	1	24
25		端間	—	—	—	33	33	1	1	25
26		北野	—	45	602	984	1,631	6	11	26
27	三浦	善導寺	—	—	—	—	—	—	—	27
28		若津	—	—	—	—	—	—	—	28
29		荒木	—	—	—	—	—	—	—	29
30	八女	羽犬塚	—	—	—	—	—	—	—	30
31		福島	—	—	—	—	—	—	—	31
32	山門	柳河	—	—	—	—	—	—	—	32
33		矢部川	—	—	—	—	—	—	—	33
34	三池	渡瀬	—	—	—	—	—	—	—	34
35		久留米	—	—	—	—	—	—	—	35
36	大牟田	大牟田	—	—	—	—	—	—	—	36
37		田川	—	2	118	37	157	3	3	37
38	京都	行橋	23	278	327	40	668	9	14	38
39		豊津	—	—	—	—	—	—	—	39
40	京都	犀川	—	45	153	9	227	1	2	40
41		苅田	—	—	—	—	—	—	—	41
42	京都	新田原	—	9	11	1	21	2	3	42

順序	郡市名	事項 派出所名	検査数量					受検		順序
			一等	二等	三等	等外	合計	実人員	件数	
43		椎田	—	—	246	6	252	1	1	43
44		角田	—	—	—	—	—	—	—	44
45	築上	宇鳥	—	—	—	—	—	—	—	45
46		小犬丸	—	—	—	—	—	—	—	46
47		唐原	—	—	—	—	—	—	—	47
48	門司	門司	—	—	—	—	—	—	—	48
49	小倉	小倉	15	296	574	31	916	7	9	49
50	合	計	8,329	45,592	69,276	11,972	135,169	214	640	50

2 出張所執行の分

順序	郡市名	事項	検査数量					受検		順序
			一等	二等	三等	等外	合計	実人員	件数	
1	粕屋	屋像	—	—	—	—	—	—	—	1
2	宗像	賀手	—	—	—	—	—	—	—	2
3	遠賀	手穂	51	162	69	5	287	3	5	3
4	鞍手	穂	382	2,363	2,570	212	5,477	13	19	4
5	嘉穂	倉	—	39	471	273	783	5	8	5
6	朝筑	紫	—	20	45	4	69	1	2	6
7	早良	鳥	—	185	1,970	485	2,640	6	15	7
8	糸島	羽	—	129	406	25	560	3	3	8
9	浮羽	井	—	—	—	—	—	—	—	9
10	三井	瀨	—	—	—	—	—	—	—	10
11	三八	女	—	—	—	—	—	—	—	11
12	山門	池	—	—	—	—	—	—	—	12
13	三池		—	—	—	—	—	—	—	13
14			—	—	—	—	—	—	—	14
15			—	—	—	—	—	—	—	15

順序	郡市名	事項	検査数量					受検		順序
			一等	二等	三等	等外	合計	実人員	件数	
16	企救		—	—	—	—	—	—	—	16
17	田川		—	—	—	—	—	—	—	17
18	京都		—	—	—	—	—	—	—	18
19	築上		—	—	—	—	—	—	—	19
20	合	計	383	2,898	5,531	1,004	9,816	33	52	20

第六 茶種の取引及市況

一 検査茶種の賣買等級格差

検査施行前に於ける茶種の賣買に於ては等級区分なき爲め主として受方に於て取引の都度一々品質點檢の上歩引を行つたのであるが、受渡上の圓滑を圖るため検査開始初年に於ても各等級間の賣買等級格差額を協定し其の勵行を勸奨した結果、其効果大なるものがあつたが検査第二年は昭和六年六月十五日茶種検査標準査定會終了後生産者取引業者、製油業者等各關係者列席の上左記の通り昭和六年産検査茶種の各等級間の賣買等級格差を協定し以來一般に實行せられた。

- 一等茶種 { 二等より 十 錢 上 げ (百斤一袋當以下同じ)
- { 三等より 二十五 錢 上 げ
- 二等茶種 { 三等より 十 五 錢 上 げ
- 三等茶種 { 標 準
- 四等茶種 { 三等より 二十 錢 以 上 下 げ

二 検査茶種の異動状況

1 県外輸送

本県の検査茶種が県外に輸送せられたる数量は二萬八千八百五十五筒にして内最も多きは大阪市への一萬五千三百五十五筒にして次に多きは佐賀縣への七千四百十五筒、山口縣への千六百二十二筒とす。

之を仕出郡市を觀るに糸島郡の九千三十六筒その首位を占め筑紫郡の五千五百二十七筒及粕屋郡の五千九百九十筒とはその次位にありて何れも大阪及佐賀方面の輸送が其の主なるものなり。

順序	仕向地		大阪	愛知	石川	山口	佐賀	熊本	大分	其他	合計	順序
	郡市名											
1	粕屋	倉	2,517	—	160	160	993	560	—	800	5,190	1
2	宗像	郡	2,829	—	—	—	—	—	—	859	3,688	2
3	遠賀	郡	458	—	—	—	—	—	—	—	458	3
4	鞍手	郡	1,694	—	—	—	—	—	—	—	1,694	4
5	嘉穂	郡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
6	朝倉	郡	188	—	—	—	452	—	—	—	640	6
7	筑紫	郡	2,625	—	—	546	1,611	320	—	425	5,527	7
8	早良	郡	240	—	—	—	—	—	—	400	640	8
9	糸島	郡	4,552	—	—	—	4,066	418	—	—	9,036	9
10	福岡	県	—	484	—	—	160	—	—	—	644	10
11	若松	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11
12	八幡	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
13	戸畑	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13
14	直方	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14
15	浮羽	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15

順序	仕向地		大阪	愛知	石川	山口	佐賀	熊本	大分	其他	合計	順序
	郡市名											
16	三井	池	—	—	—	—	133	—	—	—	133	16
17	三井	池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17
18	八女	門	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18
19	山門	池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19
20	三井	池	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20
21	久留米	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21
22	大牟田	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22
23	企救	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23
24	田川	市	—	—	—	—	—	—	20	—	20	24
25	京都	市	—	—	—	—	—	—	17	—	17	25
26	築上	市	252	—	—	—	—	—	—	—	252	26
27	門司	市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27
28	小倉	市	—	—	—	916	—	—	—	—	916	28
29	合計		15,355	484	160	1,622	7,415	1,298	37	2,484	28,855	29

2 県内輸送

県内に於ける検査茶種の輸送数量は十一萬六千三十筒にして検査茶種總輸送量の八割に當り内指定地輸送の分は六萬四千三百一筒にしてその最も多きは福岡市への三萬五千六百一十一筒にして若松市への二萬四千八百二十一筒之に次ぎ八女、三井、山門の諸郡又多し。尙指定地外の門司市への二萬四百五十八筒の多量は此處より他に轉送さるべきものであらう。

次に仕出郡市の多きを觀るに糸島郡の三萬五千三百五十五筒其の首位を占め粕屋郡の三萬二千九百三十六筒之に次ぎ宗像、筑紫の兩郡又多し。

順序	仕向地		指 定						
	郡市名		朝倉	筑紫	福岡	若松	浮羽	三井	三浦
1	粕	屋	—	285	6,714	11,334	—	—	340
2	宗	像	—	—	1,093	3,646	—	—	—
3	遠	賀	—	—	320	512	—	—	—
4	鞍	手	—	—	531	808	—	—	—
5	嘉	穂	130	—	—	899	—	—	—
6	朝	倉	663	176	514	1,231	60	—	—
7	筑	紫	12	22	1,858	6,130	—	—	495
8	早	良	—	—	651	—	—	—	—
9	糸	島	—	—	18,676	—	—	—	—
10	福	岡	—	—	—	71	—	—	—
11	若	松	—	—	—	—	—	—	—
12	八	幡	—	—	—	—	—	—	—
13	戸	畑	—	—	—	—	—	—	—
14	直	方	—	—	—	186	—	—	—
15	浮	羽	—	—	—	—	—	—	—
16	三	井	—	—	151	—	—	—	891
17	三	浦	—	—	—	—	—	—	—
18	八	女	—	—	—	—	—	—	—
19	山	門	—	—	—	—	—	—	—
20	三	池	—	—	—	—	—	—	—
21	久	米	—	—	—	—	—	—	—
22	大	田	—	—	—	—	—	—	—
23	企	救	—	—	—	—	—	—	—
24	田	川	—	—	3	—	—	—	—
25	京	都	—	—	—	4	—	—	—
26	築	上	—	—	—	—	—	—	—
27	門	司	—	—	—	—	—	—	—
28	小	倉	—	—	—	—	—	—	—
29	合	計	805	483	30,561	24,821	60	—	1,726

地				其 他				合 計	順 序
八 女	山 門	久留米	小 計	門 司	入 庫	其 他	小 計		
1,910	1,052	1,033	22,668	7,608	—	2,660	10,268	32,936	1
—	—	—	4,739	3,255	11,672	2,414	17,341	22,080	2
—	—	—	832	—	735	990	1,725	2,557	3
—	—	—	1,389	1,385	—	1,009	2,394	3,783	4
—	—	—	1,029	475	—	—	475	1,504	5
—	—	—	2,644	—	—	—	—	2,644	6
876	520	—	9,913	640	393	350	1,423	11,336	7
320	—	—	971	—	—	—	—	971	8
—	—	—	18,676	5,815	10,603	261	16,679	35,355	9
—	—	—	71	—	—	—	—	71	10
—	—	—	—	—	—	—	—	—	11
—	—	—	—	—	—	9	9	—	12
—	—	—	—	—	—	—	—	—	13
—	—	—	186	—	—	—	—	186	14
—	—	—	—	—	—	—	—	—	15
—	—	—	1,042	640	—	—	640	1,682	16
—	—	—	—	—	—	—	—	—	17
—	—	—	—	—	—	—	—	—	18
—	—	—	—	—	—	—	—	—	19
—	—	—	—	—	—	—	—	—	20
—	—	—	—	—	—	—	—	—	21
—	—	—	—	—	—	—	—	—	22
—	—	—	—	—	—	—	—	—	23
—	—	—	—	—	—	—	—	137	24
134	—	—	137	—	—	—	—	—	25
—	—	—	4	640	207	28	875	879	25
—	—	—	—	—	—	—	—	—	26
—	—	—	—	—	—	—	—	—	27
—	—	—	—	—	—	—	—	—	28
3,240	1,572	1,033	64,301	20,458	23,610	7,761	51,829	116,130	29

三 菜 種 の

昭和六年中に於ける茶種の輸移入量は三萬四千三百八十六筒にして本縣生産高三輸移入量の約四割に當り、内地産は宮崎縣よりの一萬五千三百六十三筒を首位と而して之等輸入品の着荷地は日華製油工場の存在せる若松市への輸移入最も多く次ぎ其他三井、三瀨の兩郡等に多し。

順序	輸移入地別		朝 倉	博 多	若 松	浮 羽	三 井
	産 地 別	輸 移 入 地 別					
1	輸 入	支 那	—	—	9,500	—	—
2		計	—	—	9,500	—	—
3	移 入	佐 賀	—	313	187	—	—
4		熊 本	—	250	910	—	—
5		長 崎	—	—	848	—	—
6		宮 崎	800	—	2,710	960	1,940
7		大 分	—	—	705	—	—
8		山 口	—	—	566	—	—
9		計	800	563	1,926	960	1,940
10		合 計	800	563	15,426	960	1,940

四 郡 市 別 月

本年度内の月別茶種平均価格を觀るに出廻りの初期たる六月に於ては四圓九十錢圓六十錢を最高としてそれより漸次又低落し、平均五圓九十二錢一厘となれり。次に郡市に於ける平均価格を觀るに鞍手郡の六圓三十圓錢を最高とし企救郡の四は出廻りの初期に其の大部分が取引される關係上低廉なるは免れざる所にして

輸 移 入 状 況

十四萬八百十五筒の約一割に相當し、内支那産茶種は一萬三千五百四筒にして總し熊本、大分兩縣之に亞ぐ。一萬五千四百二十六筒にして次は山門郡の六千餘筒、八女郡の二千七百餘筒之に

三 瀨	八 女	山 門	久 米 留	門 司	合 計	順 序
—	—	—	—	3,554	13,054	1
—	—	—	—	3,554	13,054	2
362	—	246	—	—	1,108	3
429	168	147	—	—	1,904	4
—	—	—	—	—	848	5
946	2,546	4,771	690	—	15,363	6
—	—	839	—	—	1,544	7
—	—	—	—	—	560	8
946	2,714	6,003	690	—	16,542	9
1,737	2,714	6,003	690	3,554	34,386	10

別 菜 種 價 格

九厘の低廉さであるが之より漸次昇騰し一月に於ては遂に七圓台に昇り二月の七圓四十五錢を最低とするも宗像、遠賀、嘉穂、早良、糸島、及び豊前方面に於て平均価格の他郡市のそれに比べ低廉なるは品質其他に關係すべきものではない。



順序	月別		昭和6年					
	郡市名		6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	粕屋	5.650	5.450	5.200	5.350	5.470	5.820	
2	宗像	5.317	5.530	5.225	—	—	—	
3	遠賀	5.220	5.396	5.280	—	—	—	
4	鞍手	5.100	5.500	—	—	5.200	—	
5	嘉穂	4.500	4.450	4.800	4.800	—	—	
6	朝倉	4.940	5.136	4.940	5.200	5.170	5.550	
7	筑紫	4.950	5.000	5.000	5.150	5.000	5.000	
8	早良	4.850	5.100	5.000	5.500	5.500	5.700	
9	糸島	5.160	5.710	—	—	—	—	
10	福岡	5.000	5.250	5.050	5.250	5.200	5.750	
11	若松	—	—	—	—	—	—	
12	八幡	—	—	—	—	—	—	
13	戸畑	—	—	—	—	—	—	
14	直方	—	—	—	—	—	—	
15	飯塚	—	—	—	—	—	—	
16	浮羽	5.000	5.280	5.000	5.350	5.000	5.300	
17	三井	4.900	5.130	—	5.200	5.100	5.150	
18	三潞	4.900	5.050	—	4.900	5.100	5.000	
19	八女	5.000	4.800	4.800	5.200	—	5.300	
20	山門	4.850	4.900	5.100	5.050	5.200	5.400	
21	三池	4.750	4.950	4.850	4.900	4.900	5.000	
22	久留米	5.000	5.200	5.150	5.400	5.300	5.600	
23	大田	4.800	5.300	5.100	5.200	5.300	5.500	
24	企救	4.100	4.750	4.500	—	—	—	
25	田川	—	—	—	—	4.980	—	
26	京都	—	5.080	—	5.000	—	—	
27	築上	—	—	—	—	—	—	
28	門司	—	—	—	—	—	—	
29	小倉	4.200	4.750	4.500	—	—	—	
30	平均	4.909	5.152	4.968	5.163	5.123	5.422	

順序	昭和7年						平均
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
1	6.000	7.700	7.700	7.700	6.300	5.400	6.142
2	—	—	—	—	—	—	5.364
3	—	—	—	—	—	—	5.308
4	—	7.900	8.000	—	—	—	6.340
5	—	—	—	—	—	—	4.637
6	6.500	7.000	7.500	7.000	6.400	6.600	5.944
7	6.800	7.400	8.300	6.800	6.200	5.000	5.883
8	5.700	—	—	—	—	—	5.335
9	—	—	—	—	—	—	5.335
10	6.930	7.700	7.800	7.000	6.400	5.750	6.090
11	—	—	—	—	—	—	—
12	—	—	—	—	—	—	—
13	—	—	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—	—	—
15	—	—	—	—	—	—	—
16	6.800	7.200	7.500	7.300	6.400	6.200	6.027
17	6.500	7.300	8.200	7.200	6.500	5.500	6.061
18	6.350	7.250	6.800	6.800	—	5.000	5.715
19	6.000	7.000	7.500	6.800	6.000	5.000	5.763
20	6.600	7.000	6.900	—	—	—	5.666
21	5.665	6.650	6.850	6.750	6.500	6.150	5.659
22	5.750	7.300	7.800	7.300	6.000	6.000	5.983
23	6.200	7.700	7.730	7.800	6.500	6.000	6.094
24	—	—	—	—	—	—	4.450
25	—	—	—	—	—	—	4.980
26	—	—	—	—	—	—	5.030
27	—	—	—	—	—	—	—
28	—	—	—	—	—	—	—
29	—	—	—	—	—	—	4.483
30	6.247	7.357	7.600	7.130	6.320	5.689	5.921

第七 菜種検査の効果

一 取引の圓滑

検査施行前に在りては包装方法及賣買單位區々にして統一なく又等級區分なかりし爲め、購買者側に於て現品を點檢して價格を定め一々之が計量を行ひ受渡を爲す實情に在りたる等取引上極めて不利不便にして動もすれば賣買兩者の間に品質又は量目に關し物議を醸す等の弊害が多かつたが、検査の開始により之等の煩を省き検査等級に依り協定賣買等級格差に基き容易且圓滿に取引が行はれ賣買兩者共に尠からざる便益を受くるに至つた。

二 生産改良の促進

検査品は其の品位の優劣に依り截然と等級が區分せられ一面賣買上には等級に従ひ夫れ夫れ格差が付せられる爲め生産者は進んで品種の選擇、肥培、管理に意を用ひて品質の改良を圖ると共に收穫後の處理に注意し乾燥を十分にし調製を入念にする等生産改良を促進したる効果も亦著しきものがある。

三 販賣上の利益

検査施行前の菜種取引は前述の如く主として仲買業者又は製油業者等受方に於て品位を點檢して價格を定め計量の上、受渡を爲す慣習の地方多く、概して生産者側に不利の事情にあつたが、検査菜種は縣の検査吏員の執行したる等級により夫れ夫れ格差取引が行はれ且計量上の不安もなく生産者の菜種販賣上受くる利益は尠くない。殊に等級區分せられたると包装及取引單位量統一の結果産業組合、農會等に於ける共同販賣上現品の受入、保管、輸送、販賣代金の計算分配等簡易となり、其の事業を促進せる効果も亦見逃せない處である。

第八 本縣に於ける菜種製油

一 検査菜種の油分含有量

本縣産検査菜種の各等級間の眞價を知悉することは検査執行並取引上の重要資料であるが昭和六年産検査標準品に就て日華製油若松工場に於て調査したる分析の成績は次表の通である。

事項 等級	品 種	品 質 檢 査						分 析			
		完全	未熟	虫喰	他種	土、塵 大	同 小	水分	種子 油分	原料 油分	窒素
一 等	大朝鮮	95.01	4.13	0.72	—	0.06	0.08	7.56%	46.45%	46.38%	2.660%
二 等	大朝鮮	96.29	2.92	0.72	—	—	0.07	8.61	45.45	45.42	2.722
三 等	大朝鮮	91.64	7.40	0.81	0.06	—	0.09	7.95	43.30	43.26	3.053

二 縣内に於ける製油事業

縣内に於ける製油原料としての年間所要菜種數量は三十九萬三千八百四十箇にして其の大量消費地は大工場を有する若松市の二十二萬三千餘箇最も多く全數量の五割六分に當り、八女郡の五萬五千箇之に次ぎ大工場の機械製油のみにて約二十三萬箇に達し其他小規模の機械製油は縣下に百二十三箇所及び十六萬一千七百四十箇を費し、産業組合の經營になるものは宗像郡の唯一ヶ所二千三百箇あり。

附 録

一 茶種検査に関する規則抄録（昭和七年五月三十日現在）

第一章 總 則

第一條 本則は於て穀物トハ玄米、精米、小麥及茶種ヲ謂ヒ、受渡トハ賣買、貸借、辨濱、讓渡、交換、擔保、寄託又ハ小作料納付ノ爲授受スルヲ謂ヒ、移出トハ本縣外ニ搬出スルヲ謂フ
知事ニ於テ特ニ指定シタル本縣内ノ地ニ汽車、電車、自動車又ハ船舶ニ依リ穀物ヲ搬入スルトキハ之ヲ移出ト看做ス
前項ノ指定地ハ別ニ之ヲ告示ス

第四條 検査ハ左ノ事項ニ就キ之ヲ行ヒ其ノ品位ニ依リ所定ノ検査等級ニ區別ス

- | | |
|----------|---|
| 一 品 | 質 |
| 二 形 | 狀 |
| 三 乾 | 燥 |
| 四 調 | 製 |
| 五 容量又ハ重量 | |
| 六 包 | 裝 |

前項ノ検査等級ノ標準品ハ毎年之ヲ査定シ其ノ標準程度ハ特別ノ事由アル場合ノ外之ヲ變更セス

検査等級標準品ノ査定ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 移 出 檢 査

第二十五條 移出検査ヲ受クル穀物ノ一包裝ノ容量又ハ重量ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

四 茶種正味百斤但シ移出スル茶種ニシテ豫メ穀物検査所長ノ許可ヲ受ケタルモノハ正味百二十一斤ト爲スコトヲ得

第二十六條 移出検査ヲ受クル穀物ノ包裝ハ左ノ各號ニ依リ茶種ハ二重袋トスヘシ

袋 茶種ニ在リテハ重量約二百五十匁ノ袋二枚ヲ重ネテ用ヒ袋ノ小口ヲ卷キ糸ニテ縫ヒ締メ周リ約一寸二分ノ縦繩ヲ一箇所ニ廻トシ小口ニテ男結ニ結束シ卷封ヲ施ス部分ヲ存シ横繩ヲ一箇所ニ條ヲ以テ縦繩ニ引掛ケ結束ス

但シ第二十五條第四號ニ依ルモノニ付テハ掛繩ヲ省略スルコトヲ得又質堅牢ナル一重品ニシテ検査吏員ニ於テ適當ト認ムル袋ニ限リ一重ニテ二重袋ニ代用スルコトヲ得

第二十七條 移出検査ヲ受クル穀物ニハ様式第三號ノ票箋ヲ袋ニ在リテハ小口ノ縫糸ニ之ヲ附着スヘシ

第二十八條 移出検査ノ等級ハ茶種ニ在リテハ一等、二等、三等、等外ノ四階級トス但シ輸出スル茶種ニ對シテハ検査申請者ノ請求ニ依リ特ニFIノ等級ヲ附スルコトアルヘシ

災害ノ爲一般ニ穀物ノ品質ヲ著シク損シタル場合ニ於テハ其ノ年ニ生産シタル茶種ニハ四等ノ一階級ヲ増設スルコトアルヘシ

第二十九條 移出検査ヲ受ケムトスル者ハ様式第四號ノ移出検査申請書ヲ最寄派出所又ハ出張所ニ差出スヘシ

第三十條 検査吏員移出検査ヲ行ヒタルトキハ其ノ穀物ノ種類及検査等級ニ應ジ左ノ手續ヲ爲スモノトス

四 茶種ニ對シテハ其ノ包裝ノ縦繩ノ結止ニ様式第八號ノ封箋紙ヲ以テ卷封ヲナシ票箋ニ検査年月日ヲ記入シ其ノ卷封及票箋ニ様式第十一號ノ檢印ヲ押捺スルコト但シ輸出スル茶種ニ對シテハ封箋紙ノ卷封ヲ省略シ其ノ袋面ニ様式第十號ノ移出検査等級證印ヲ押捺ス

第三十一條 移出検査ノ有効期間ハ茶種ニ在リテハ六十日トス但シ十一月一日ヨリ五月三十一日迄ニ検査ヲ受ケ其ノ期間内ニ移出スルモノハ此ノ限ニアラス

移出検査指定地

福岡縣穀物検査規則第一條一二項ニ依リ指定地左ノ通之ヲ定ム

福岡市、若松市、久留米市、朝倉郡、筑紫郡、三井郡、三潞郡、八女郡、山門郡

(様式第十一號)

檢 印 (肉色...紫)

F I



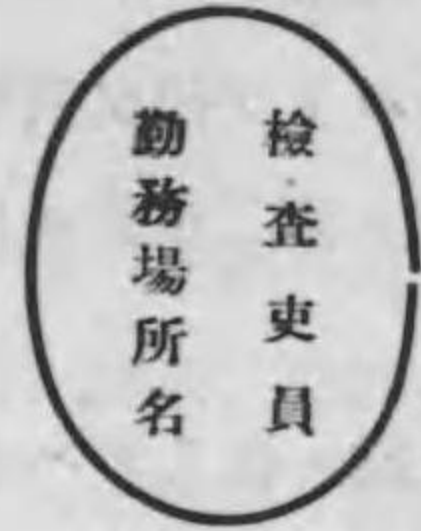
長徑 三寸二分
短徑 二寸四分
肉巾 二分五厘

(様式第十號)

福岡縣穀物検査所何派出所(出張所)宛

住所(又ハ所在地) 職業 氏 名(又ハ名稱)

移出検査用



長徑 五分
短徑 四分

(様式第三號)

移出検査用票箋

用紙ハ強靱ナル白模造紙トス上部三分赤色トス

昭和何年産菜種
重量 何斤
皆掛重量何貫何匁
福岡縣何市何町何村
受檢者 何 某
昭和年月日検査

三分↑ 三寸 寸

←.....分五寸.....→

(様式第四號)

移出検査申請書

一 昭和何年産菜種
百斤(又ハ百二十斤)入何袋此検査手数料金何圓何錢

一 所在地 何市何町何村

一 仕向地又ハ倉庫名 何縣何市何町(何農業倉庫)等

右検査相成度申請候也

年月日

二 菜 種 檢 査 第 二

所 長	次 郎 七 郎 草 場
地 方 農 林 主 事	
本 所	
地 方 農 林 技 師	雄 鹿 一 之 造
福 岡 縣 農 林 主 事 補	重 利
同	牧 善
同	義 善
福 岡 縣 農 林 技 手	杉 本 藤 善
	佐 荒 佐 藤

年 の 關 係 職 員

福 岡 縣 農 林 技 手	次 郎 之 榮 雄 巖 三
同	正 生 藤
同	淺 田 山
同	谷 村 限 田
同	澁 田 岩 松 西 鍋
出 張 所 勤 務	武 利 雄 七
福 岡 縣 農 林 技 手	
柏 屋 同	木 山 村 邊

	補助員
	同
	同
宗像	福岡縣農林技手
遠賀	福岡縣農林技手
	補助員
	同
鞍手	福岡縣農林技手
	補助員
	同
嘉穂	福岡縣農林技手
	補助員
	同
	同
	同
朝倉	福岡縣農林技手
	補助員
筑紫	福岡縣農林技手
	補助員
早良	福岡縣農林技手
	補助員
糸島	福岡縣農林技手
浮羽	福岡縣農林技手
三井	福岡縣農林技手
	補助員
	同
三潞	福岡縣農林技手
	補助員
八女	福岡縣農林技手
	補助員
山門	福岡縣農林技手

阿石	部	文	藏
城	田	仁	七
立	戶	彌	蒼
大	花	平	藏
白	久	保	彦
安	石	豐	一
和	永	義	平
中	田	林	郎
松	清	四	吉
許	村	乙	雄
井	尾	久	敏
繩	斐	成	繁
原	上		郎
福	田	儀	次
深	田	長	郎
平	澤	吉	雄
秋	見	龍	郎
酒	野	八	藏
山	吉	又	喜
鬼	井	義	夫
有	崎	敏	次
篠	倉	圓	吉
中	富	此	男
國	原	九	州
平	武	七	介
中	田	貞	藏
境	村	金	男
山		茂	茂
向	田	淺	一
倉	江	平	郎
豐	員	政	市
	福	與	

三池	福岡縣農林技手
企救	福岡縣農林技手
田川	福岡縣農林技手
	補助員
	同
京都	福岡縣農林技手
築上	福岡縣農林技手

坂口	平
福井	男
石松	夫
植田	吉
伊藤	競
榎本	利喜藏
半田	繁治

派出所勤務

古賀	福岡縣農林技手
	補助員
	同
赤間	福岡縣農林技手
	補助員
	同
東郷	福岡縣農林技手
	補助員
福岡	福岡縣農林技手
	補助員
海老津	福岡縣農林技手
	補助員
	同
遠賀川	福岡縣農林技手
	補助員
	同
甘木	福岡縣農林技手
	補助員
	同
山家	福岡縣農林技手

許太	山田	忠新	太	郎
矢篠	野崎	要貞	信	郎
石池	松田	善太	研	郎
古中	野村	茂四	啓	助
花力	丸山	和	一	郎
片八	尋田	利	一	郎
石永	沼浦	武		滿
吉織	田山	修		雄
香仰	木城	正		一
水川	邊	嘉		章
平畑	井	善		郎
久	原			吉
				明
				市
				茂

二日市 { 福岡縣農林技手
補 助 員

原田 { 福岡縣農林技手
補 助 員

雜餉隈 福岡縣農林技手

西新 福岡縣農林技手

周船寺 { 福岡縣農林技手
補 助 員

前原 { 福岡縣農林技手
補 助 員

福吉 { 福岡縣農林技手
補 助 員

博多 福岡縣農林技手

八幡 { 福岡縣農林技手
若松 福岡縣農林技手
戸畑

飯塚 福岡縣農林技手

直方 { 福岡縣農林技手
補 助 員

田主丸 { 福岡縣農林技手
同

吉井 { 福岡縣農林技手
補 助 員

小郡 { 福岡縣農林技手
補 助 員

北野 { 福岡縣農林技手
補 助 員

善導寺 { 福岡縣農林技手
補 助 員

森下彌七郎
平山喜代次
青森山俊夫
川山下作雄
有山口映
波富此吉
大下和夫
吉多江改三
東神富哲基
橫司喜助
阿尾熊壽
安武守太郎
秦藤次郎
梶原吾三郎
許斐次俊
荳島兵七
岩熊次郎
林田猪次郎
大塚本重實
塚浦彦次郎
三甲斐田四郎
高能松登
松永熊清市
稗田一太郎
猪飼勇
豊福秋太

若津 { 福岡縣農林技手
同

荒木 { 福岡縣農林技手
同

羽犬塚 { 福岡縣農林技手
同 助 員

福鳥 福岡縣農林技手

柳河 { 福岡縣農林技手
補 助 員

矢部川 { 福岡縣農林技手
補 助 員

渡瀬 { 福岡縣農林技手
補 助 員

久留米 { 福岡縣農林技手
同

大牟田 { 福岡縣農林技手
補 助 員

伊田 { 福岡縣農林技手
同 助 員

行橋 { 福岡縣農林技手
同 助 員

豊津 { 福岡縣農林技手
補 助 員

梅松 崎本 新末 一吉
古賀 本賀 末深 次助
田中 賀中 深清 助雄
小野 野中 清忠 藏三
江崎 崎野 忠作 藏市
白井 井永 教八 市衛
德山 山口 博次 街一
山西 田口 次清 助香
江中 島木 清朝 猛夫
櫻山 本崎 喜惣 夫一
西近 本崎 惣十 一
宮平 河田 秋 次
野田 田會 太郎
福安 坂口 勝平
坂野 田田 勝三
武市 丸金 治
桑野 久米 治
古谷 末實 治
奥村 實 藏
内田 周 勇
石來 市 道
加尼 崎 造
勇

岸川	福岡縣農林手技補助員	中原伊六
新田原	福岡縣農林技手	前田正則
椎田	福岡縣農林技手	長尾安一
	補助員	幸村重太郎
角田	福岡縣農林技手	梅崎親徳
	補助員	前田嘉六
宇島	福岡縣農林技手	戸成谷五郎
	同	萩田清一
小犬丸	福岡縣農林技手	戸成谷五郎
	補助員	一木倉三
唐原	福岡縣農林技手	久保廣三
	同	入江清
門司	福岡縣農林技手	假治田藤助
	補助員	吉村英雄
小倉	福岡縣農林技手	野口武男
	同	福井繁
同	同	柴崎悟吉
	同	松崎政吉
同	同	白石勇雄

三 全國の菜種の生産状況 (昭和六年産)

1 道府縣別作付反別及實收高

昭和六年産菜種の全國作付反別は七萬五千七十二町八段歩で其の内福岡縣は一萬五千百五町八段歩即ち總作付反別の約二割に當りその首位を占め鹿兒島縣の一萬六百三十四町歩之に次ぎ其他滋賀縣、三重縣、北海道等又多し。

次に收穫高は百二十八萬二千七百二十箇(六十五萬一千八百六十四石)で本縣は三十三萬九千八百十五箇(十七萬三千二百三十二石)にて全國の二割七分に當る最も多き生産縣なり。

尙一反歩當の實收高全國平均は百七十斤(八斗六升一合)にして最高は徳島縣の二百六十四斤(一石三斗三升八合)にて最低は熊本縣の百一斤(五斗一升一合)であるが本縣は百二十八斤(一石一斗八合)にて良好なり。

種別 道府縣別	作付反別	實收高		一反歩當實收高	
		箇數	容量	重量	容量
北海道	4,815.4	97,777	49,633	203	1.031
青森	683.2	14,842	7,534	217	1.100
岩手	181.0	1,913	971	106	0.536
宮城	42.9	498	253	116	0.590
秋田	110.3	506	752	134	0.682
山形	109.1	1,700	863	156	0.791
福島	516.2	—	5,180	198	1.003
茨城	916.5	18,079	9,177	197	1.001
栃木	514.5	12,204	6,195	237	1.204
群馬	85.7	1,456	739	170	0.862
埼玉	215.6	3,617	1,836	168	0.852
千葉	1,688.8	34,491	17,508	207	1.049
東京	17.5	240	122	137	0.697
神奈川	640.0	14,170	7,193	221	1.124
新潟	952.3	13,926	7,069	146	0.742
富山	31.0	662	336	214	1.084
石川	209.6	3,812	1,935	182	0.923
福井	769.3	12,982	6,590	169	0.857
山梨	111.4	2,799	1,421	251	1.276
長野	111.3	1,519	771	137	0.693
岐阜	893.9	16,778	8,517	157	0.795
静岡	1,082.2	22,616	11,480	209	1.061
愛知	3,730.2	61,472	31,204	165	0.837
三重	6,018.6	73,936	37,531	123	0.624
滋賀	8,800.5	102,912	52,240	117	0.594
京都	461.0	7,813	3,916	169	0.860
大阪	2,313.0	42,853	21,753	185	0.940
兵庫	334.7	5,085	2,581	152	0.771
奈良	192.5	3,266	1,658	170	0.861
和歌山	37.4	788	400	210	1.070

種 別 府 縣 別	作 付 反 別	實 收 高		一 反 步 當 實 收 高	
		筒 數	容 量	重 量	容 量
鳥 取	町 240.7	4,886	石 2,480	斤 203	石 1.030
鳥 根	161.5	2,707	1,374	168	0.851
岡 山	140.5	2,760	1,401	196	0.997
廣 島	54.6	1,089	553	200	1.013
山 口	778.2	13,565	6,886	174	0.884
德 島	76.1	2,005	1,018	264	1.338
香 川	10.2	236	120	232	1.176
愛 媛	194.2	3,765	1,911	194	0.984
高 知	36.8	561	285	152	0.774
福 岡	15,105.8	339,815	173,232	225	0.047
佐 賀	2,191.4	42,867	21,760	196	0.993
長 崎	1,061.2	16,759	8,507	158	0.802
熊 本	2,438.7	24,550	12,462	101	0.511
大 分	707.9	8,146	4,135	115	0.584
宮 崎	4,674.6	96,266	48,866	206	1.045
鹿 兒 島	10,634.5	136,848	69,466	129	0.653
沖 繩	—	—	—	—	—
合 計	75,072.8	1,282,720	651,864	170	0.861

2 年次別作付反別及生産高

全國的茶種の生産年次に従ひ之を通觀するに昭和元年頃に於ては其の作付反別は七萬五千餘町歩を示したるも其後茶種油の價格低落に伴ひ作付反別の減少は直ちに影響し年々減少したるも近時當局及生産者の茶種栽培に力を盡したる結果本年度は昭和元年當時に復活し而も一反歩當の收穫量は年々増加せるを以て其の實收高に於ては年次増嵩せるを觀る。

種 別 年 次 別	作 付 反 別	實 收 高		一 反 步 當 實 收 高	
		重 量	容 量	重 量	容 量
昭 和 元 年	町 75,582.1	1,154,507	石 586,755	斤 153	石 0.776
同 2 年	73,007.7	1,143,414	580,413	157	0.795
同 3 年	72,245.4	1,174,152	596,981	163	0.826
同 4 年	70,547.2	1,173,452	595,666	166	0.844
同 5 年	71,212.4	1,224,160	621,401	172	0.873
以 上 5 箇 年 均 平	72,518.9	1,173,937	596,243	162	0.823
同 6 年	75,072.8	1,282,720	657,864	170	0.861

昭和七年十月廿五日印刷

昭和七年十月三十一日發行

福 岡 縣 穀 物 檢 査 所

印刷者

福岡市渡邊通四丁目

間 藤 次 郎

印刷所

福岡市渡邊通四丁目

秀 巧 社 印 刷 所

電話一八九三番

14. 2□-271



14.2a

271

終